

KENWOOD

ステレオ カセット デッキ

KXF-W6010

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

2 本機の特長

ドルビーHX Pro とオートバイアス機能

ドルビーHX Pro ^{プロ} headroom extension ^{ヘッドルーム} とオートバイアス機能により、高域特性の優れた録音ができます。

便利な選曲機能 (DPSS)

簡単な操作で、次の便利な機能を使うことができます。

- ① 飛び越し選曲 ② 巻き戻し再生 ③ 1曲リピート ④ ダッシュ&プレイ (DPSS: Direct Program Search System)

CCRS機能

録音するディスクの最適録音レベルを自動的に設定し、簡単操作でCD録音ができます。

(CCRS: Computer-Controlled CD Recording System)

リレー録音機能

AデッキのテープからBデッキのテープへ連続して録音することができます。

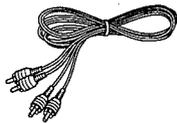
ダビング機能

AデッキのテープをBデッキのテープへ録音することができます。

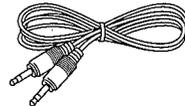
付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

オーディオコード (2本)



システムコントロールコード (1本)



目次

はじめに	2	録音のしかた	20
本機の特長	2	普通の録音	20
⚠ 安全上のご注意 (必ずお読みください)	3	リレー録音のしかた	23
用語解説集	7	リレー録音	23
知っておきましょう	8	ダビングのしかた	24
メンテナンス	8	ダビングする	24
参考	9	簡単なCD録音のしかた	25
接続のしかた	10	CDのシンクロ録音	25
各部のなまえと働き	12	CDのCCRS録音(Bデッキのみ)	26
再生(録音)準備のしかた	14	タイマーを利用して	27
再生(録音)の準備	14	テープのタイマー再生	27
カセットテープのききかた	15	放送のタイマー録音	28
普通の再生	15	故障かな?と思ったら	29
リレー再生のしかた	16	定格	31
便利な選曲のしかた (DPSS)	18	保証とアフターサービス	32
飛び越し選曲	18		
巻き戻し再生	19		
一曲リピート再生	19		
ダッシュ&プレイ	19		

安全上のご注意には、この製品を正しく安全にご使用いただくための注意事項がまとめられています。ご使用の前に、必ずお読みください。

製品を安全にご使用いただくため、この「安全上のご注意」と取扱説明書本文をご使用の前によくお読みください。

お読みなされた後は必要なときにご覧になれるように取扱説明書を大切に保管してください。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。

その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△ 記号は、注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。



⊘ 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



● 記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

お客様、または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

本製品の故障、誤動作または不具合による、テープやディスク等へ記録された内容の損害、および録音、再生など、お客様または第三者が製品利用の機会を逸したために発生した損害等、付随的損害の補償については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。(説明項目の中には、操作説明部と重複する内容もあります。)

指定以外の電圧では使用しない

この機器は、交流100ボルト専用です。
《交流100ボルト以外の電圧で使用すると、火災、感電の原因になります》



電源コードの取扱い

電源コードを傷つけないでください。無理な曲げ、ねじり、引っ張りや、加熱、加工などを加えないよう、ご注意ください。



使用禁止

電源コードが傷ついたら（芯線の露出や断線など）使用しないでください。

《火災や感電の危険があります》

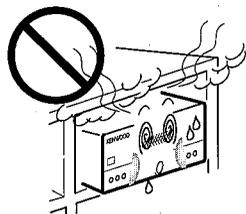
●修理をご依頼ください。



放熱に注意

設置の際は、壁から10cm以上離してください。機器のカバー等にある穴は、放熱のための通風孔です。ふさがないように、ご注意ください。

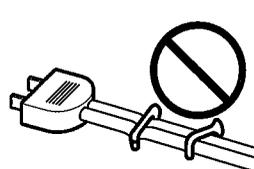
- 風通しの悪い、狭い所に押し込まない。
 - 横倒し、あおむけ、逆さまに置かない。
 - 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上に置かない。
- 《通風孔がふさがると、内部が異常高温となり、火災の原因になります》



電源コードの配線に注意

電源プラグをコンセントに接続するときは、次のことに十分ご注意ください。

- 電源コードの上に機器本体や、重いものを置かない。
 - 敷物の下に電源コードを隠さない。
 - 電源コードをステーブルや釘などで固定しない。
 - 足を引っ掛ける恐れがある配線をしない。
- 《コードが傷つき、火災や感電の原因になります》

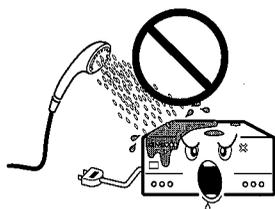


風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室など、湿度の高いところや、水はねのある場所で使用しないでください。
《火災や感電の危険があります》



風呂、シャワー室での使用禁止



異常かな?と思ったら

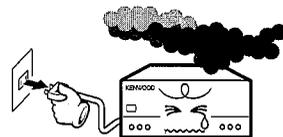
煙が出たり、変な臭いや音がする場合、機器の使用を中止してください。

《火災や感電の危険があります》

- 直ちに電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 安全を確かめてから、修理をご依頼ください。



電源プラグをコンセントから抜け

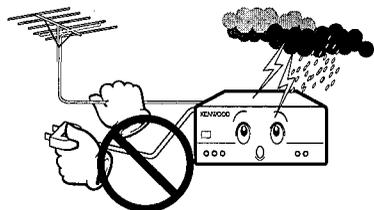


雷が鳴り始めたら

アンテナ線や電源プラグに触れないでください。
《感電の危険があります》



接触禁止



乾電池は充電しない

《電池の破裂、液漏れにより、火災や、けがの原因になります》



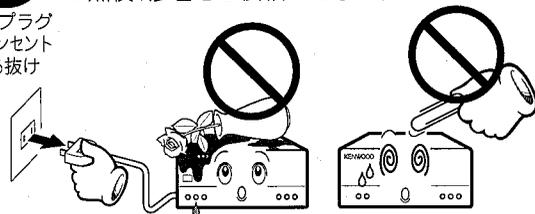
水ぬれ
禁止電源プラグ
をコンセント
から抜け

機器の内部に異物や水を入れない

内部に水や、異物が入った場合、機器の使用を中止してください。

《火災や感電の危険があります》

- 電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 点検、修理をご依頼ください。

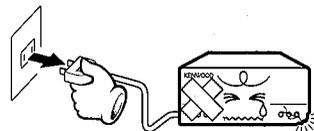


落下した機器は使わない

落したり、カバーやケースがこわれた機器を、使用しないでください。

《火災や感電の危険があります》

- 電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 点検、修理をご依頼ください。

電源プラグ
をコンセント
から抜け

分解禁止

ケースを絶対に開けないでください

機器の裏ぶた、カバーを開けたり、改造をしないでください。

《内部には電圧の高い部分があり、火災や感電の危険があります》

- 点検、修理は販売店またはケンウッド営業所へご依頼ください。

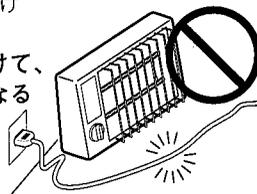


注意

電源コードは熱器具の近くを避けて

電源コードを熱器具（ストーブ、アイロンなど）に近付けないでください。

《コードの被覆が溶けて、火災、感電の原因になることがあります》



指定以外のコードを使わない

関連機器を接続する際は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、接続には、指定のコードをご使用ください。

《指定以外のコードの使用や、コードの延長は、発熱ならびに、やけどの原因になることがあります》

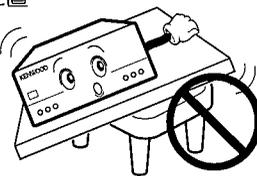
- 指定コードが不明の場合は、販売店にご相談ください。



不安定な場所には置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。

《落ちたり倒れたりして、けがの原因になることがあります》

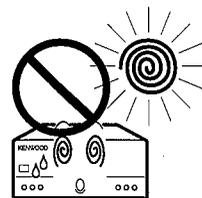


温度の高い場所には置かない

窓を開けきった自動車の

中や、直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。

《本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因になることがあります》

水ぬれ
禁止

湿気やほこりのある場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台、加湿器のそばや、湿気やほこりの多い場所には置かないでください。

《火災や感電の原因になることがあります》

電源プラグ
をコンセント
から抜け

長期間使用しないときは

長期間、機器を使用しないときは、安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

《電源プラグをコンセントに接続したまま長期間放置すると火災の原因になることがあります》

音量に気をつけて



はじめに、音量(ボリューム)を最小にしてください。

《突然大きな音が出て、聴力障害の原因になることがあります》

ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

《耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力障害の原因になることがあります》



電源プラグをコンセントから抜け

お手入れの際は

お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

《電源プラグをコンセントに接続したままの作業は、感電の原因になることがあります》

3年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。もよりの販売店、またはケンウッド営業所に費用を含めご相談ください。

《内部にほこりがたまったまま長期間使用すると、火災や故障の原因になることがあります》



お子様にご注意

お子様が機器に乗ったり、ぶら下がったりしないように、ご注意ください。

《倒れたり、こわれたりして、けがの原因になることがあります》

お子様がカセットテープやディスクの挿入口に、手を入れないように、ご注意ください。

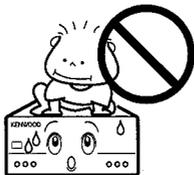
《けがの原因になることがあります》

電池はお子様の手が届かないところに置いてください。

《電池を飲み込むおそれがあります》



指をはさまれないよう注意



電池の取扱い



電池は誤った使い方をすると、感電、破裂、発火の危険があります。また、乾電池は液漏れにより機器を腐食させたり、手や衣類を汚す原因にもなります。次のことを、必ず守ってください。

●極性表示(プラス" +"とマイナス"-")の向きに注意し、表示通りに入れてください。

●指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。

●電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてください。



電源プラグの抜き差しは



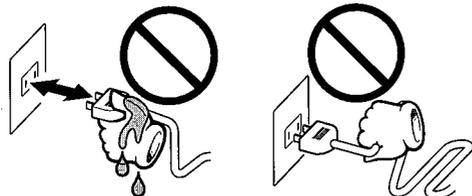
ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

《感電の原因になることがあります》

電源プラグを抜くときは、プラグを持って抜いてください。

《コードの部分を引っ張ると、コードが傷つき、火災や感電の原因になることがあります》



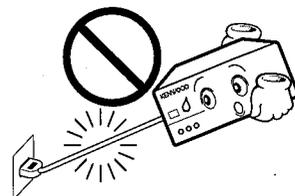
機器を移動させる際は



電源プラグをコンセントから抜け

移動の前に、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コード(アンテナ線や機器間の接続コードなど)を、はずしてください。

《接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災、感電の原因になることがあります》



電源プラグは清潔に



1年に1度くらいは、電源プラグをコンセントから抜いて清掃してください。

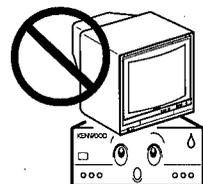
《電源プラグにほこりがたまると、火災の原因になることがあります》



指定機器以外のものを乗せない

機器の上に指定機器以外の物体を乗せないでください。

《乗せた物体の落下により、けがをする原因になることがあります。また、乗せた物体の形や重量によっては、放熱効果が悪化したり、カバーやケースが変形して、火災、感電の原因になることもあります》



DPSS (Direct Program Search System) について - [18]

DPSSとは、曲と曲の間の4秒以上の無録音部分を検出して、操作キーで指示を与えると、次のような4種類の簡単な再生ができます。(両デッキ同時にはできません。)

1. 飛び越し選曲 : 再生中に数曲先の曲(または前の曲)を選ぶと、途中の曲を飛び越して、選んだ曲の最初から再生します。最大16曲まで飛び越し選曲することができます。
2. 巻き戻し再生 : テープを巻き戻し、テープの初めから再生します。
3. 1曲リピート再生 : 同じ曲を16回繰り返し再生します。
4. ダッシュ&プレイ : 再生中、テープの途中に10秒以上の無音部分があると、その間だけを早送りします。

ドルビー-HX Proとは - [20]

一般の高周波バイアス方式における録音では、録音しているソースによって音楽などに含まれている高周波成分により、一定であるべき高周波バイアス電流が増加し、録音特性(特に高域でのひずみ、ダイナミックレンジ、周波数特性)を劣化させます。

ドルビー-HX Proは、録音している音楽ソースに含まれる高周波成分を検出し、その分だけバイアス電流を抑え、バイアス電流が一定になるようにコントロールします。

この結果、高域の録音特性が大幅に改善され、本機以外の一般再生デッキにおいても、すぐれた高音域再生を楽しむことができます。

ドルビーノイズリダクション (NR) システムについて - [14]

ドルビー-NRシステムは、テープ再生の際に発生する"サー"というテープヒスノイズを、聴感上極力小さくするためのシステムです。

ドルビー-NRシステムは、録音時と再生時と同じ方式を使用することで初めて効果が得られます。異なった方式で再生すると正しい音質での再生音を得られません。必ず録音時と再生時のドルビー-NR方式を合わせてください。

ドルビー-B NR:

一般普及型のドルビー-NR方式として、一般家庭用機器でドルビー-NRシステムといえばドルビー-B NRを指します。

ドルビー-C NR:

ドルビー-B NRに比べて、さらに優れたノイズ低減効果が得られます。本機だけで録音/再生するときは、ドルビー-C NRの利用をおすすめします。ドルビー-NRシステムで録音したテープには"B"、"C"の区別を明記しておきましょう。

オートバイアス機能とは - [20]

オートバイアス機能とはテープのバイアス値を自動的に調整し、それぞれのテープの特性を生かした録音ができる機能です。

CCRS (Computer Controlled CD Recording System) とは - [26]

本機を"XS"、"XS8"、"SL16" (XS8)"マークのついているケンウッド製のアンプ、CDプレーヤーにシステムコントロールコードで接続すると、録音するディスクの最適録音レベルを自動的に設定し、録音を開始するCCRS機能を使うことができます。

1. CDプレーヤーが再生を開始し、ディスクの収録レベルから、ピーク値をサンプリングします。
2. サンプリングしたピーク値から、そのディスクの最適録音レベルを決め、設定します。
3. 約20~200秒で以上の録音準備を終え、録音を始めます。
4. 録音が終了(CDプレーヤーが停止したとき、またはテープが終わったとき)すると、カセットデッキとCDプレーヤーは停止します。



メンテナンス

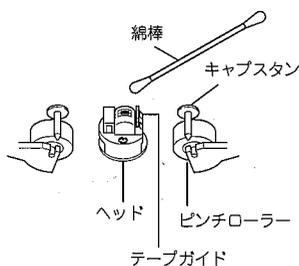
セットのお手入れ

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、やわらかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

接点復活剤について

接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を变形させることがあります。

ヘッドのお手入れ



ヘッド回りのクリーニング

いつまでも最良の状態でご使用になるには、テープ再生時間約10時間ごとに、ヘッド(録音/再生/消去)、キャプスタン、ピンチローラーのクリーニングを心がけてください。クリーニングは、次の手順で行ってください。

1. イジェクトボタンを押し、カセットホルダーを開けます。
2. ヘッド(録音/再生/消去)、およびキャプスタン、ピンチローラーを、市販のクリーニング液を含ませた綿棒で注意深くクリーニングします。

ヘッドの消磁

録音・再生ヘッドが磁気を帯びると雑音が大きくなります。市販の消磁器(ヘッドイレーサー)で消磁してください。



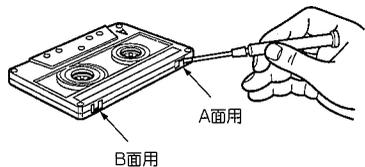
ヘッドのテープガイドなど、精密に調整された部分があります。クリーニングの際は、引っかけたり、強い衝撃などを加えないように注意してください。

参考

カセットテープについてのご注意

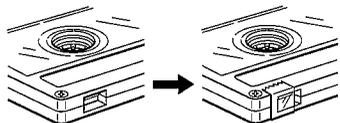
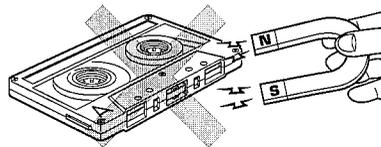
誤消去防止装置

大切な録音のあとには、カセットのツメを折ってください。
誤消去・誤録音を防げます。



カセットテープの保管について

直射日光下や暖房器などのそばに放置しないでください。
また、磁石や磁気は近づけないでください。

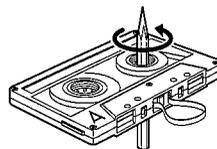


再び録音するには

折った所だけにテープをはる。

テープがたるんでいる場合

このような場合には、リール軸に鉛筆などを差し込んで、テープのたるみをとってから装着してください。



1. 110分以上のテープについて

110分以上のテープは大変薄く、ピンチローラーに巻きついたり、切れたりトラブルが発生しやすいので、ご使用は避けください。

2. エンドレステープについて

エンドレステープは故障の原因となりますので、ご使用にならないでください。

結露にご注意

本機と外気の温度差が激しいと、本機に水滴(露)が付くことがあります。この現象がおきますと、本機が正常に動作しないことがあります。このようなときには、本機の電源をいれた状態で、数時間放置し、乾燥させてからご使用ください。

次のようなときは特に結露にご注意ください。
気温差の大きいところへ持ち込んだときや、湿気の多い部屋など。

あなたが録音または録画したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

ステレオ音のエチケット



ドルビーノイズリダクションおよびHX PROヘッドルームエクステンションは、ドルビーラポラトリーズライセンスコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。

HX PROは、バングアンドオルフセンの考案です。ドルビー、DOLBY、ダブルD記号およびHX PROは、ドルビーラポラトリーズライセンスコーポレーションの商標です。

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分にいたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を開めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

下図のように接続してください。
 関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。

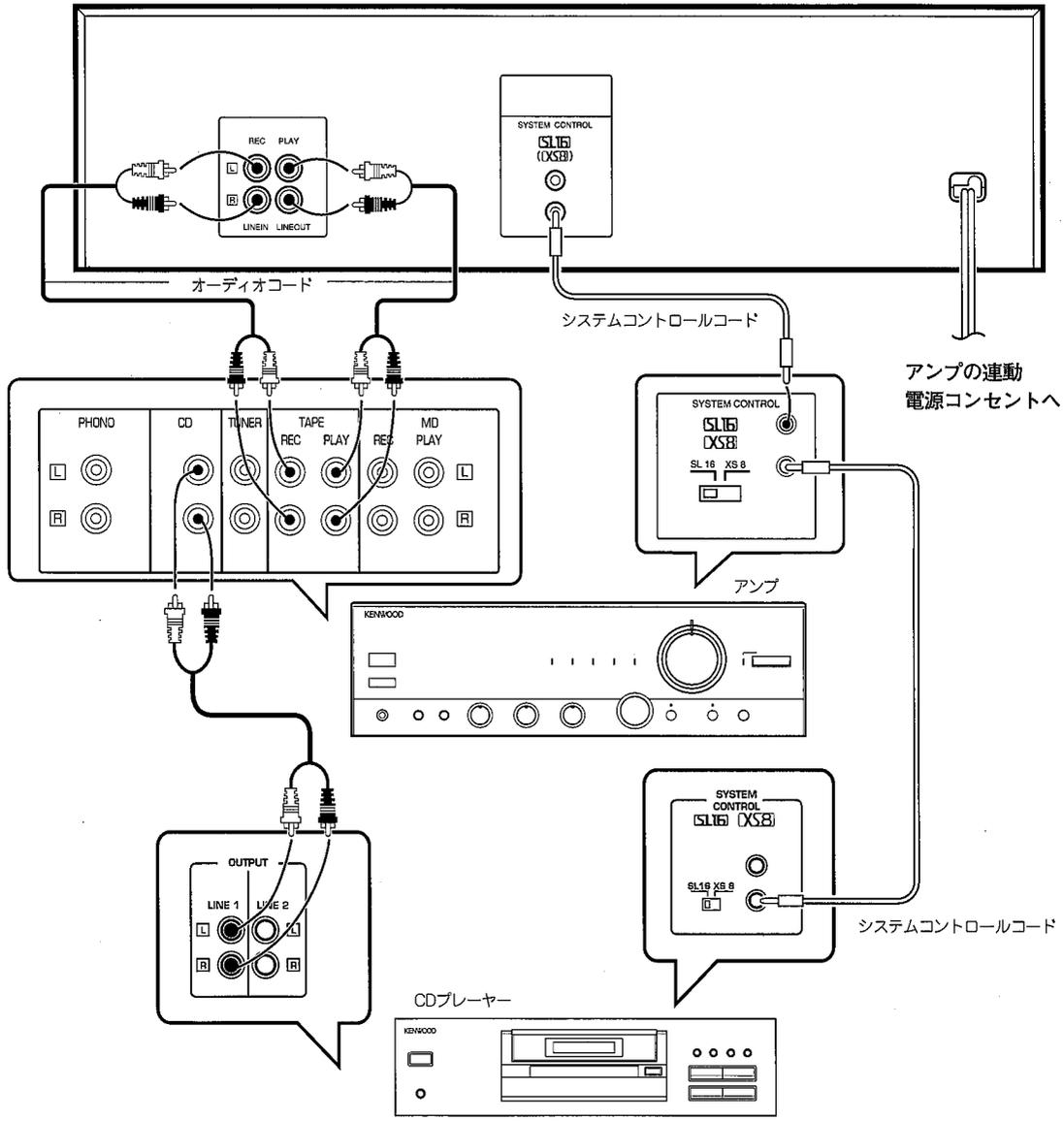
⚠ 注意 接続のご注意

接続をするときは、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。
 機器の接続は、図のように行なってください。

マイコンの誤動作について



正しく接続したにもかかわらず操作ができなかったり、ディスプレイが誤った表示をする場合は、「故障かな?と思ったら」を参照してマイコンをリセットしてください。 -29



1. すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
2. 接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。電源コードを抜かずに接続コードの抜き差しを行うと、誤動作または破損の原因となります。

システムコントロール接続について

ケンウッドのオーディオコンポーネントシステムを接続したとき、システムコントロールコードを接続することで、便利な機器相互間のシステムコントロール動作が可能になります。

ケンウッドのシステムコントロールには、2種類のモードがあります。下記の端子記号の組み合わせ例に従って接続してください。

"[XS 8]のモード" : [XR]、[XS]、[XS8]との組み合わせができます。

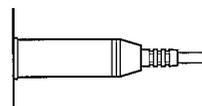
"[SL16]のモード" : [SL16]のモードのみの組み合わせです。

本機は"[XS 8]"と"[SL16]"の両方に対応しています。工場出荷時の状態は"[SL16]"です。

[XS 8]モードにするときは、"[XS 8]と[SL16]の切り換えかた"に従ってモードを切り換えてください。



- [SL16]と[XR]、[XS]、[XS 8]等とのシステム動作の組み合わせはできません。もしこのような組み合わせがあった場合は、システムコントロールコードは接続しないでください。システムコントロールコードを接続しなくても、通常の性能、操作性が損なわれることはありません。
- アンプまたはレシーバーにシステムコントロール端子がない場合は、どのシステムコントロール端子にも、なにも接続しないでください。
- 当社指定以外の機器との接続は、故障の原因となりますのでおやめください。
- システムコントロールプラグは根元まで差し込んでください。



システムコントロール動作について

リモートコントロール

アンプまたはレシーバーに付属するシステムリモコンで、本機を操作することができます。

オートマチックオペレーション ([XR] の機器を除く)

本機を再生させると、アンプまたはレシーバーの入力切り換えが自動的に切り換わります。

シンクロ録音 ([XR] の機器を除く)

CD、MD、LD、アナログディスクを録音するときに、プレーヤーの再生を始めると連動して録音をスタートさせることができます。また、CDのより良い録音を簡単操作で行えるCCRSが利用できます。

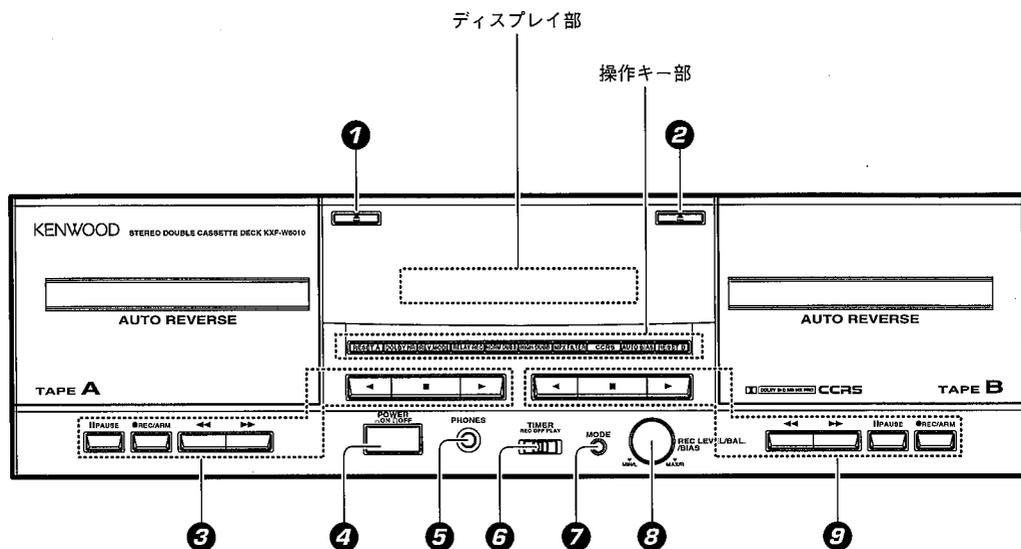
[XS 8] と [SL16] の切り換えかた

次の方法で簡単にモードを切り換えることができます。この操作はすべての接続が完了してから行ってください。

[XS 8] にするとき: Bデッキの◀◀(巻き戻し)キーを押しながら、POWERスイッチをオフからオンにする。 

[SL16] に戻すとき: Bデッキの▶▶(早送り)キーを押しながら、POWERスイッチをオフからオンにする。 

●この切り換えをしても、各種の記憶内容は保持されます。



① Aデッキ用イジェクト (▲) キー → [14]

カセット蓋を開くとき押します。

② Bデッキ用イジェクト (▲) キー → [14]

カセット蓋を開くとき押します。

③ Aデッキ操作部 → [15]

ポーズ PAUSE (II) キー

録音、再生時の一時停止。

レック/オートレックミュート REC/ARM (●) キー → [20]

録音および4秒間の無録音部分をつかって、録音一時停止するとき押します。

◀▶ : 巻き戻しキー

▶▶ : 早送りキー

◀▶

: 再生キー

■

: 停止キー

④ POWERスイッチ → [14]

電源オン、オフの切り換えをします。

⑤ PHONES端子 → [15]

ステレオヘッドホンプラグを差し込みます。

⑥ TIMERスイッチ → [14]

タイマーの再生/録音時に設定します。

⑦ MODEキー → [20]

録音レベル、バランス、バイアス等の切り換えをします。

⑧ REC LEVEL/BAL./BIASつまみ → [20]

録音のときに調節します。

⑨ Bデッキ操作部 → [15]

◀▶ : 再生キー

■ : 停止キー

◀◀ : 巻き戻しキー

▶▶ : 早送りキー

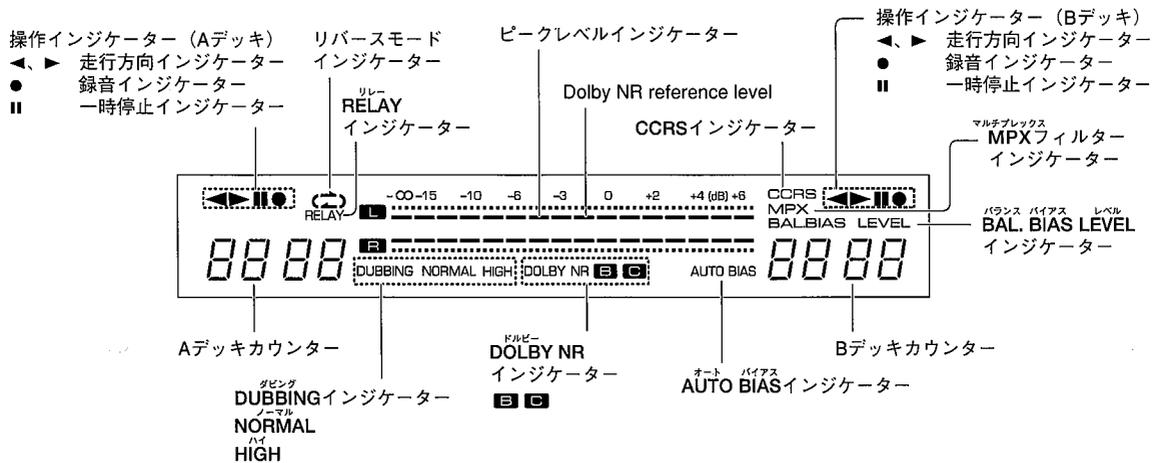
ポーズ PAUSE (II) キー

録音、再生時の一時停止。

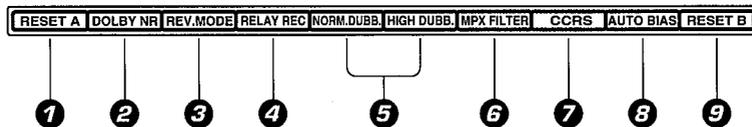
レック/オートレックミュート REC/ARM (●) キー → [20]

録音および4秒間の無録音部分をつかって、録音一時停止するとき押します。

ディスプレイ部

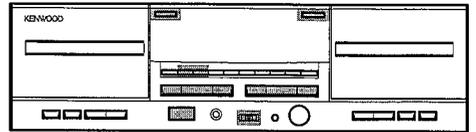
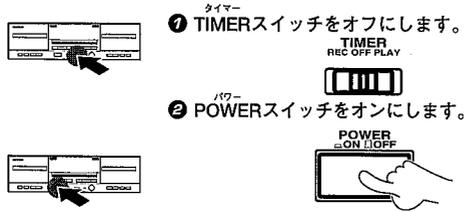


操作キー部



- ① **リセット**
RESET Aキー → [15]
Aデッキのカウンタを"0000"にします。
- ② **ドルビー**
DOLBY NRキー → [14]
録音、再生時にドルビーNR効果が得られます。
- ③ **リバースモード**
REV.MODEキー → [14]
テープ走行方向の切り換えをします。
- ④ **リレー** **レック**
RELAY RECキー → [23]
AデッキからBデッキに連続録音ができます。
- ⑤ **ダビング**
DUBB.キー (NORMAL / HIGH) → [24]
テープをダビングするときに使います。
- ⑥ **マルチプレックス** **フィルター**
MPX FILTERキー → [21]
FM放送録音時のビート音を低減します。
- ⑦ **CCRS**キー → [26]
CDの最適録音レベルを自動的に設定し、録音を開始します。
- ⑧ **オート** **バイアス**
AUTO BIASキー → [20]
録音時、テープに適したバイアスレベルが設定されます。
- ⑨ **リセット**
RESET Bキー → [15]
Bデッキのカウンタを"0000"にします。

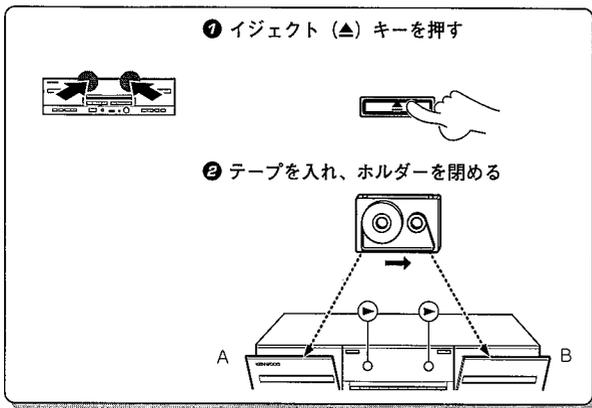
再生 (録音) 準備の前に



■ : 使用するキー、または、つまみ等を示します。

再生 (録音) の準備

1 AまたはBデッキにカセットテープを入れる

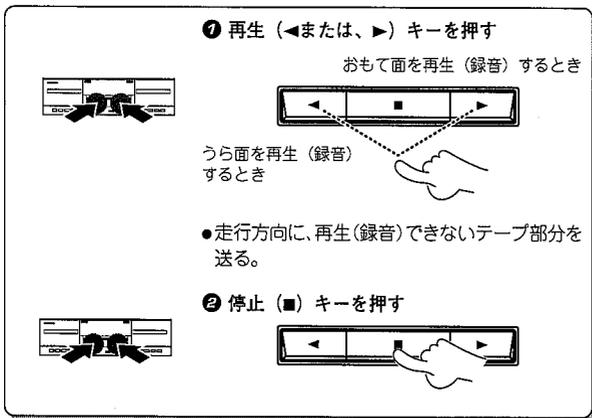


- ノーマルポジション、ハイポジション、メタルポジションのテープ選択は自動設定されます。

ノーマルポジション	TYPE I
ハイポジション	TYPE II
メタルポジション (再生のみ)	TYPE IV

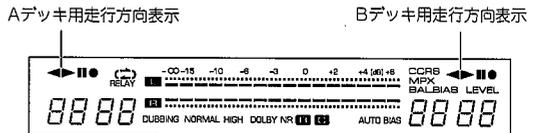
- テープは、たるみのない状態にして入れてください。
- カセットホルダーを押して、確実に閉めてください。
- 本機はメタルテープでの録音はできません。

2 走行方向を選ぶ

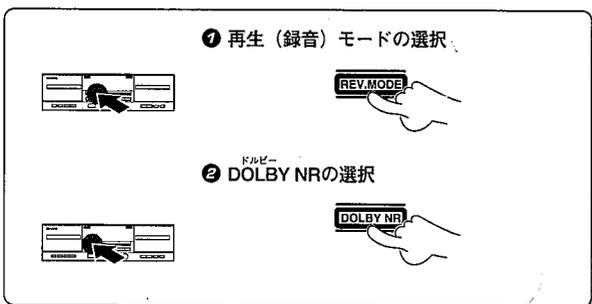


走行方向表示

再生、または録音するテープが進む方向を◀▶表示で示します。最後にテープを止めたときの方向が、電源を切ってもそのまま保持されます。タイマー等で自動スタートするとき表示の方向にスタートします。走行方向を変えたいときは、反対向き再生キーを押してすぐに停止(■)キーを押してください。



3 再生 (録音) 条件を決める



押すごとに表示が切り換わります。

- ① "◀▶" : 両面を再生 (または録音) して止まる。
- ② "∞" : エンドレス再生 (または両面を録音後、1回で止まる) をする。
- ③ "■" : 片面のみを再生 (または録音) して止まる。

押すごとに表示が切り換わります。

- ① DOLBY NR "B" : 一般的なタイプ。
- ② DOLBY NR "C" : より高性能なタイプ。
- ③ DOLBY NR "OFF" (消灯) : DOLBY NRを使わない。

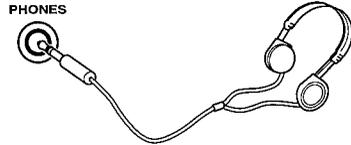
- DOLBY NRは、テープの録音状態に合わせて選んでください。

準備しましょう

"再生 (録音) の準備"を参照する。 

ヘッドホンを使うには

市販の標準プラグ付きステレオヘッドホンをPHONES端子に差し込み、お楽しみください。



普通の再生

再生する

再生 (◀または▶) キーを押す

うら面を再生するとき

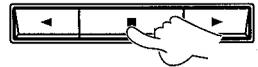
おもて面を再生するとき



●テープは走行方向インジケータと同じ向きの面を再生します。

早送り・巻き戻しのしかた

① 再生を止める



② ◀◀キー、または▶▶キーを押す

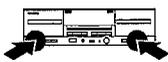
◀◀: ◀方向に早送りする

▶▶: ▶方向に早送りする



●早送りを止めるときは、停止(■)キーを押してください。

一時停止する

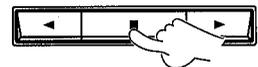


|| PAUSE



●||インジケータが点灯します。

再生を止める

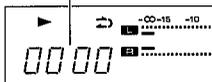


●テープが完全に停止するまで、イジェクト(▲)キーを押さないでください。

カウンターを利用して

録音(再生)を始める前に、リセット RESET Aキーまたはリセット RESET Bキーを押してカウンターを"0000"にしておきます。
テープの途中で録音(再生)を終わりたいときなど、その数字をメモしておくと、次の録音(再生)のときに、続きの場所を探すめやすくなります。
ゼロストップ機能を利用して、録音(再生)開始点まで戻ることができます。

Aデッキ用カウンター



ゼロストップのしかた

リモコン (別売アンプ付属) では操作できません。

➡ 方向に早送りする

2つのキーを同時に押す



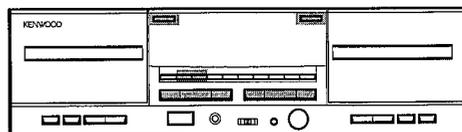
◀ 方向に早送りする

2つのキーを同時に押す



●カウンターの"0000"付近まで早送りして止まります。

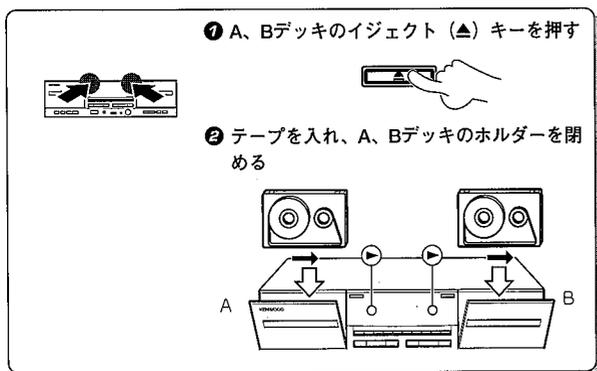
A、B両デッキに入れたカセットテープを、交互に繰り返し再生します。



■ : 使用するキー、または、つまみ等を示します。

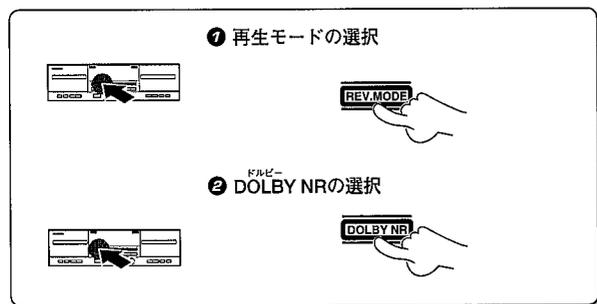
リレー再生のしかた

1 カセットテープを両デッキに入れる



- テープは、たるみのない状態に入れてください。
- 内側上部を押して、確実に閉めてください。

2 再生条件を決める



押すごとに表示が切り換わります。

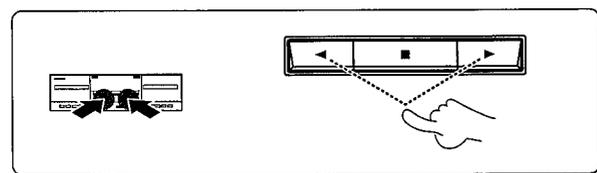
- ① "→" : A、Bデッキの両面を繰り返し再生します。
- ② "↔" : リレー再生になりません。
- ③ "←" : A、Bデッキの片面を繰り返し再生します。

押すごとに表示が切り換わります。

- ① DOLBY NR "B" : 一般的なタイプ
- ② DOLBY NR "C" : より高性能なタイプ
- ③ DOLBY NR "OFF" (消灯) : DOLBY NRを使わない

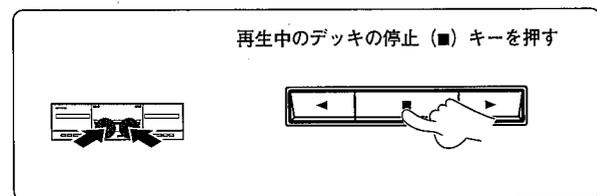
- DOLBY NRは、テープの録音状態に合わせて選んでください。

3 再生する

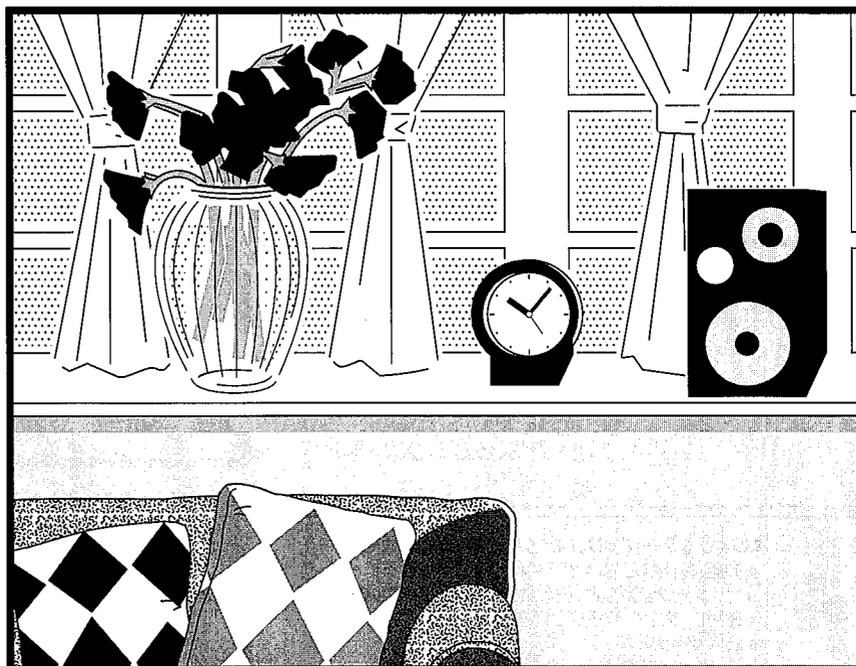


- テープは、走行方向インジケータと同じ向きの面を再生します。
- 押した方のデッキから再生を始めます。

リレー再生を止める



再生中のデッキの停止 (■) キーを押す



便利な選曲のしかた (DPSS)

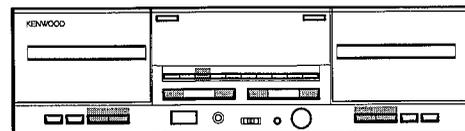
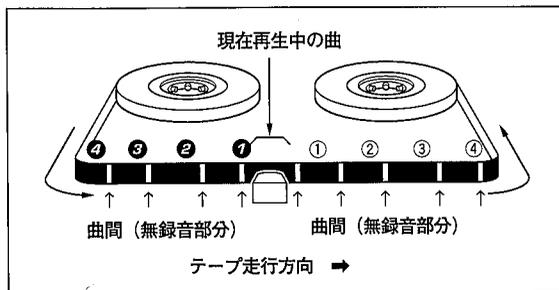
KXF-W6010 (J)

18

DPSS機能により、操作キーで指示を与えると、以下のような便利な選曲ができます。(両デッキ同時にはできません)

DPSSは、曲と曲の間の4秒以上の無録音部分を検出して機能します。

1. 飛び越し選曲 : 再生中に数曲先の曲(または前の曲)を選ぶと、途中の曲を飛び越して、選んだ曲の最初から再生します。最大16曲まで飛び越し選曲することができます。
2. 巻き戻し再生 : テープを巻き戻し、テープの初めから再生します。
3. 1曲リピート再生 : 同じ曲を16回繰り返し再生します。
4. ダッシュ&プレイ : 再生中、テープの途中に10秒以上の無音部分があると、その間だけを早送りします。

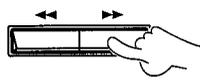
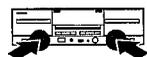


■ : 使用するキー、または、つまみ等を示します。

飛び越し選曲

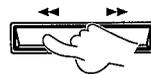
下の図は走行方向表示が▶のときの例です。走行方向表示の向きが◀のときは、いずれの場合も図とは反対方向のキーを押します。

1曲先の曲を聞くととき



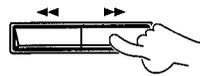
再生中に1回押す

再生中の曲を初めから聞くととき



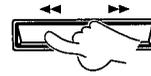
再生中に1回押す

4曲先の曲を聞くととき



再生中に4回押す

4曲前に戻して聞くととき



再生中に5回押す

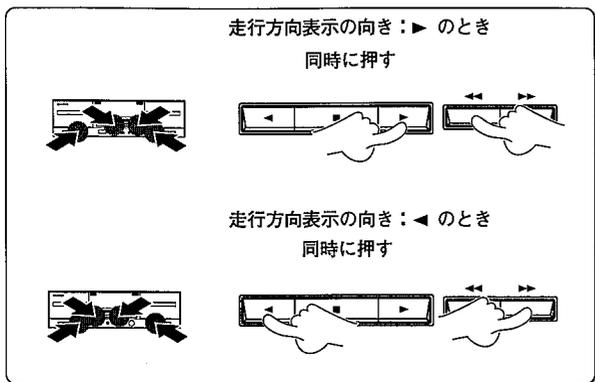


次のようなテープでは、DPSSが正常に動作しません。

- 会話、落語などで、音声4秒くらい途切れるテープ。
- クラシック音楽など、曲のなかで極端にレベルの低い部分や、無録音部分があるテープ。
- 曲間に、大きな雑音などが録音されているテープ。
- 曲間が4秒未満のテープ。
- 低いレベルで録音されたテープ。
- クロスフェード
- X. FADE録音されたテープ。

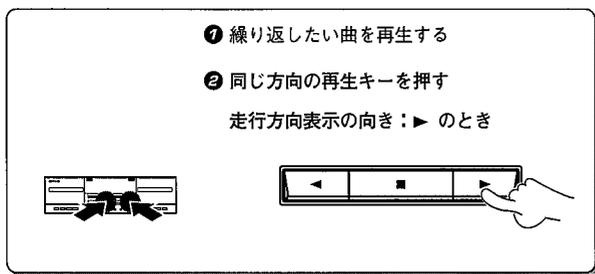
巻き戻し再生

リモコン (別売アンプ付属) では操作できません。



●停止(■)キーを押すと再生が停止し、解除します。

1曲リピート再生

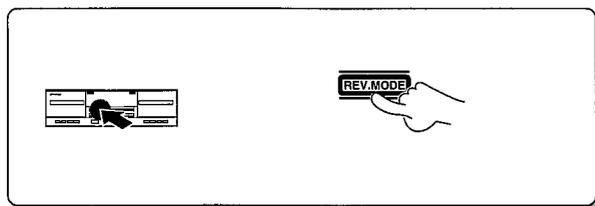


●同じ曲を16回繰り返したあと、通常の再生に戻ります。
●停止(■)キーを押すと再生が停止し、解除します。

ダッシュ&プレイ

無録音部分を自動的に早送りして再生します。リモコン (別売アンプ付属) では操作できません。

1 再生モード (条件) を選ぶ

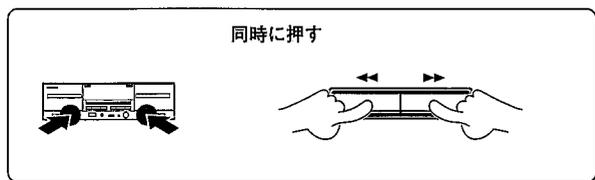


押すごとに表示が切り換わります。

- ① "⏮" 両面を1回のみ再生して停止する。
- ② "🔄" 両面を8回繰り返し再生して停止する。
- ③ "⏭" 片面のみ8回繰り返し再生して停止する。

●"⏮"のときテープが両方のデッキに入っているときは、片方のデッキがダッシュ&プレイを終えると、他方のデッキがダッシュ&プレイを始め、16回繰り返しして停止します。

2 ◀◀ キーと▶▶ キーを同時に押す

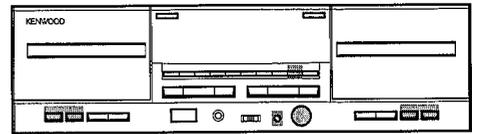


●停止(■)キーを押すと再生が停止し、解除します。

本機はDOLBY HX Pro ^{プロ} headroom ^{ヘッドルーム} extension ^{エクステンション}とオートバイアス機能により、高域特性の優れた録音ができます。
本機はメタルポジションテープには対応していませんので、メタルポジションテープでの録音はしないでください。

準備しましょう

- ① "再生 (録音) の準備"を参照する。 - [14]
- ② (CDプレーヤーにディスクを入れる。)



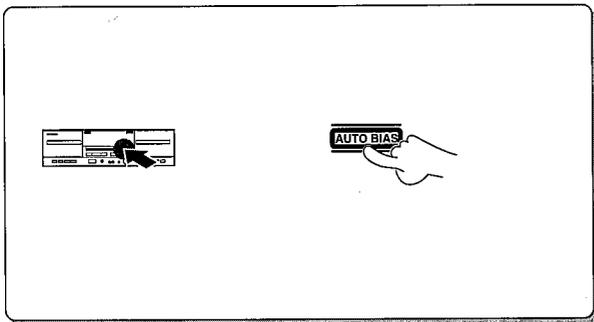
■ : 使用するキー、または、つまみ等を示します。

普通の録音

1 録音する音楽ソースを選ぶ

- アンプの入力切換で選びます。
- FM放送を録音するときは、"MPX FILTER"キーの使いかたを参照してください。 - [21]

2 オートバイアスの設定をする (Bデッキのみ)



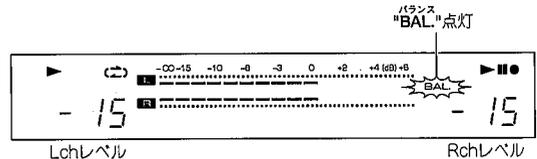
- 約40秒で適正バイアス値が設定され、停止します。
- オートバイアス設定後の微調は、"バイアスレベルの調節"を参照してください。 - [21]
- オートバイアスの設定は省略しても録音できます。
- テープの残量が少ないときは、オートバイアスの調節が途中で解除され停止することがあります。
- バイアス調節中に解除したいときは、停止 (■) キーを押します。
- オートバイアスは、イジェクト (▲) キーを押すと解除されます。

3 録音レベルを合わせる

- ① 音楽ソースを再生する
- ② 録音待機状態にする
- ③ MODEキーを押して"BAL."を選ぶ。
- ④ 録音バランスを調節する
右の音が減少する。 左の音が減少する。
- ⑤ MODEキーを押して"LEVEL"を選ぶ。
- ⑥ 録音レベルを調節する
録音レベルが減少する。 録音レベルが増加する。
- ⑦ 音楽ソースを停止する

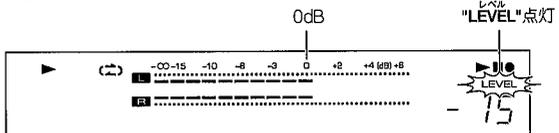
- PAUSE (II) キーを押しながら、REC/オートレックミュート (●) キーを押します。

- MODEキーを押すたびに切り換わります。
- ① "LEVEL"点灯: 録音レベル設定モード
 - ② "BAL."点灯: 録音バランス設定モード
 - ③ "BIAS"点灯: 録音バイアス設定モード (Bデッキのみ)
 - ④ "LEVEL"、"BAL."、"BIAS"消灯: カウンター表示モード



- 録音のバランスレベルを左右同じく表示するように調節します。また、L、Rのピークレベルインジケーターでも確認できます。

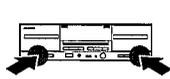
- MODEキーを押すたびに切り換わります。
- ① "LEVEL"点灯: 録音レベル設定モード
 - ② "BAL."点灯: 録音バランス設定モード
 - ③ "BIAS"点灯: 録音バイアス設定モード (Bデッキのみ)
 - ④ "LEVEL"、"BAL."、"BIAS"消灯: カウンター表示モード



- ピークレベルインジケーターの0dB付近がときどき点灯するように録音レベルを調節します。
- A、Bデッキとも録音レベルが調節されます。

4 録音を始める

- ① REC/ARM (●) キーを押す



1回押す

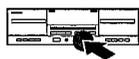
- ② 音楽ソースを初めから再生する

- 録音が始まります。
- 録音する面が終了すると、自動的に停止します。

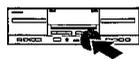
バイアスレベルの調節 (Bデッキのみ)

MODEキーを利用してバイアスレベルを調整できます。

- ① MODEキーを押して"BIAS"を選ぶ。



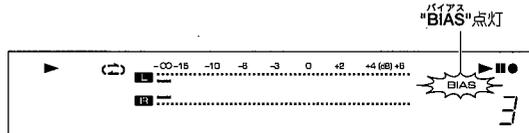
- ② バイアスレベルを調節する



高域が下がる。 MIN/L MAX/R 高域が上がる。

MODEキーを押すたびに切り換わります。

- ① "LEVEL"点灯: 録音レベル設定モード
- ② "BAL"点灯: 録音バランス設定モード
- ③ "BIAS"点灯: 録音バイアス設定モード (Bデッキのみ)
- ④ "LEVEL"、"BAL"、"BIAS"消灯: カウンター表示モード



バイアスレベル

- 録音と再生を相互に繰り返しながら調節し、聴感上良い点を選びます。
- バイアス値は、±3ステップの可変ができます。

マルチプレックス フィルター

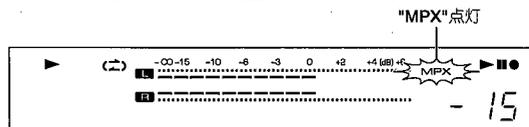
MPX FILTERキーの使いかた

FM放送を録音するときに、本機能を使用します。



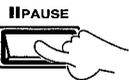
FM放送を録音したとき、使用されるチューナーによっては、「ピー」というビート音が録音されることがあります。このようなときは、MPX FILTERキーを押してから録音してください。ビート音を軽減することができます。

MPX FILTERを解除するには、再度キーを押します。



録音の一時停止

一時停止



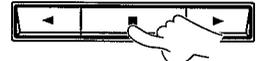
- IIインジケータが点灯します。

録音を再開するとき



録音を止める

- ① カセットテープを停止する



- ② 音楽ソースを止める

曲間に無録音部分をつくる

停止中

2回続けて押す。



録音中

1回押す。



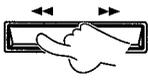
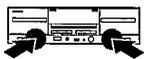
- 約4秒間の無録音部分をつくり、録音一時停止状態になります。

録音のとり直し

曲の途中で録音をとり直すときに便利です。録音開始位置の前に4秒間の無録音部分が必要です。

- ① 録音中に、巻き戻す

▶方向録音中は

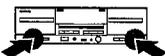


◀方向録音中は



- ② REC/ARM (●) キーを2回押す

レック/オートレックミュート



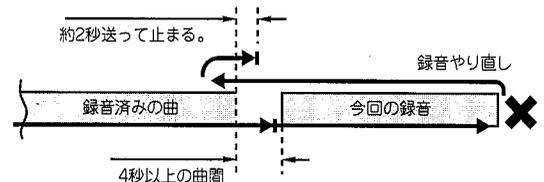
- ③ 録音したい曲をもう一度再生する

- ④ REC/ARM (●) キーを1回押す

レック/オートレックミュート



- 録音中に▶▶(または◀◀)キーを押すと、録音開始位置の手前に、4秒以上の無音がある場合は、録音を中止し、図のように巻き戻します。



- 録音済みの曲が手前にならない場合は、テープを巻き取って止まります。
- テープの最初から録音し直す場合は、リーダーテープ(テープ巻き初期の録音できない部分)を送ってから録音を始めてください。

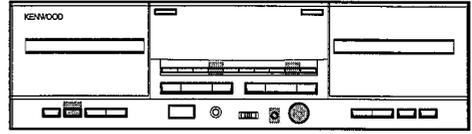
- 4秒間の無録音部分をつくって止まります。

- 録音が始まります。

AデッキからBデッキに連続して録音ができます。
本機はメタルポジションテープには対応していませんので、メタル
ポジションテープでの録音はしないでください。

準備しましょう

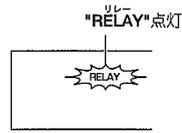
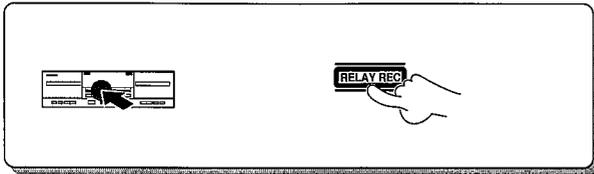
"再生(録音)の準備"を参照する。 14
(リレー録音をするときは、A、B両デッキにテー
プを入れます。録音モードは、"二"または"つ"
モードのみを選択してください。)



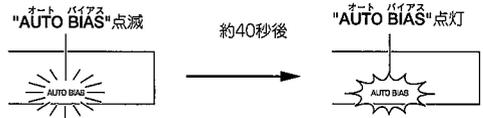
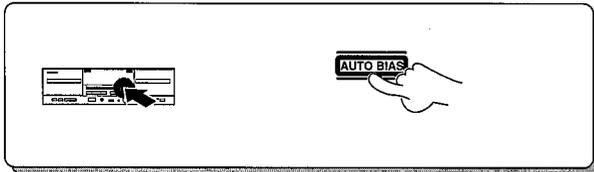
: 使用するキー、または、つまみ等を示します。

リレー録音

1 リレー録音モードにする



2 オートバイアスの設定をする (Bデッキのみ)



- 約40秒で適正バイアス値が設定され、停止します。
- オートバイアスの設定は省略しても録音できます。

3 録音レベルを調節する

- 1 録音ソースを再生する
- 2 録音待機状態にする (Aデッキ)
- 3 録音バランス、録音レベルを調節する 20
- 4 録音ソースを停止する

4 録音を始める

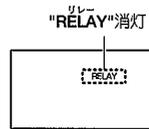
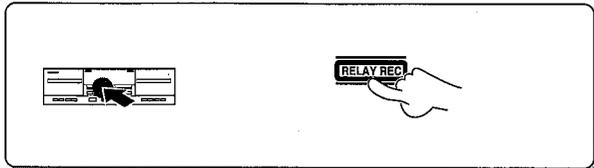


- 1 ロック/オートロックミュート REC / ARM (●) キーを押す (Aデッキ)

- 2 録音ソースを始めから再生する

- 録音が始まります。
- Aデッキの録音が終わった時点で、Bデッキの録音が自動的に始まります。

リレー録音の解除



- 再度 リレー RELAY REC レック キーを押すと解除します。



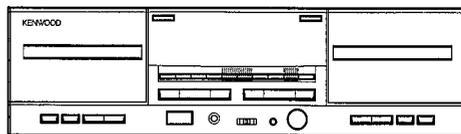
リバースモード
REV.MODEが "∞" になっていると、リレー録音は動作しません。

録音済みのテープを別なテープにコピーすることをダビングといいます。(AデッキのテープをBデッキのテープに録音します。) 本機はメタルポジションテープには対応していませんので、メタルポジションテープでの録音はしないでください。

準備しましょう

- 14

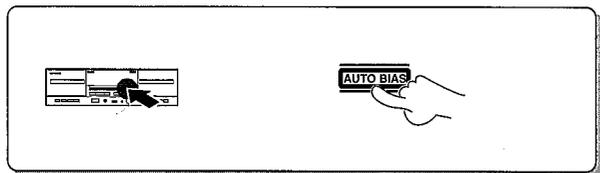
- ① Aデッキに再生テープ、Bデッキに録音するテープを入れる。
- ② Aデッキ、Bデッキのテープ走行方向(◀、▶)を合わせる。(すぐ停止キーで止める。)
- ③ 再生(録音)条件を決める。



■ : 使用するキー、または、つまみ等を示します。

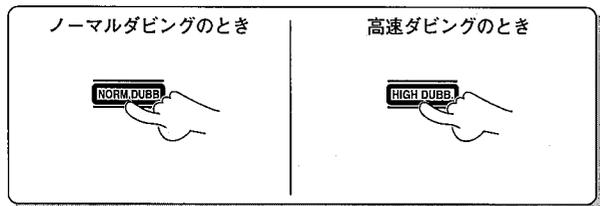
ダビングする

1 オートバイアスの設定をする (Bデッキのみ)



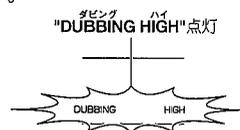
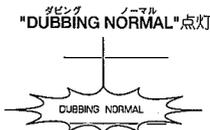
- 約40秒で適正バイアス値が設定され、停止します。
- オートバイアスの設定は省略しても録音できます。

2 ダビングを始める

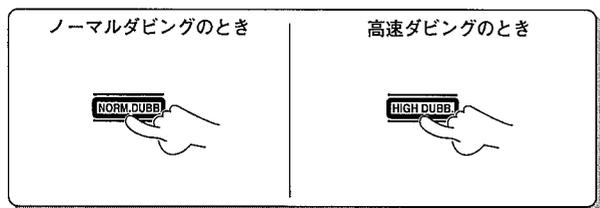


ノーマルダビング : 通常で速度でダビングします。

高速ダビング : 通常の約2倍の速度でダビングします。

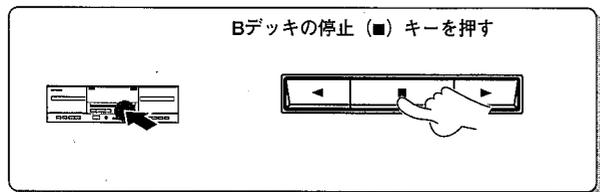


ダビングの一時停止



- ノーマルでは、約4秒間、高速では約6秒間の無録音部分を作った後、Bデッキのみ一時停止状態になります。
- ダビングを再開するときは、押したDUBBINGキー(ハイまたはノーマル)を、もう一度押します。

ダビングの停止



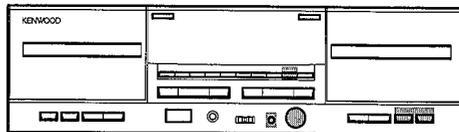
- Aデッキ、Bデッキとも停止します。



1. ダビング時は、録音レベルと録音バランスの調節ができません。
2. ダビング時は、DOLBY NRキーは機能しません。ダビングしたテープは、Aデッキと同じノイズリダクションで作られません。
3. TVのそばで高速ダビングをすると、TV雑音が入ることがあります。TVから離してください。
4. 録音レベルが高いテープを高速ダビングすると、音質を損なうことがあります。このようなときは、ノーマルでダビングしてください。

ケンウッド製のシステムコントロール端子の付属した"XS"、"XS8"、"SL16 (XS8)"タイプのアンプ、CDプレーヤーと本機がシステムコントロールコードで接続されていると、本機とCDプレーヤーを同時にスタートさせることができます。
本機はメタルポジションテープには対応していませんので、メタルポジションテープでの録音はしないでください。

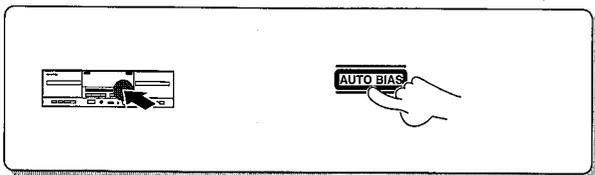
- 準備しましょう**
- ① "接続のしかた"を参照して、接続を済ませる。 → 10
 - ② "再生(録音)の準備"を参照する。 → 14
 - ③ (CDプレーヤーにディスクを入れる。)



: 使用するキー、または、つまみ等を示します。

CDのシンクロ録音

1 オートバイアスを設定する (Bデッキのみ)

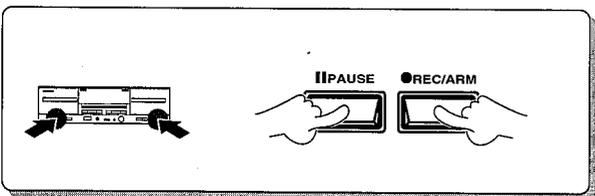


- 約40秒で設定終了します。
- オートバイアス設定後の微調は"バイアスレベルの調節"を参照してください。 → 21
- バイアス調節中に解除したいときは、停止(■)キーを押します。
- オートバイアスの設定は省略しても録音できます。

2 録音レベルを合わせる

<p>① CDを再生する</p> <p>CDプレーヤーの ▶/ キーを押す</p>	<p>② 録音待機状態にする</p> <p>ポーズ ●PAUSE ()キーを押しながら、 レック/オートレックミュート REC / ARM (●)キーを押します。</p>	<p>③ 録音バランス、録音レベルを調節する</p> <p>"録音のしかた" → 20</p>	<p>④ CDを停止する</p> <p>CDプレーヤーの ■キーを押す</p>
---	---	---	---

3 録音待機状態にする



- ポーズ
●PAUSE (||)キーを押しながら、レック/オートレックミュート
REC / ARM (●)キーを押します。

4 CDを再生する

CDプレーヤーの▶/|||キーを押す
または
録音を始めたい曲番の数字キーを押す

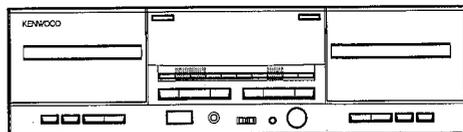
- マルチディスクタイプのCDプレーヤーを使って、2枚以上のCDをプログラムしている場合は、シンクロ録音はできません。
- 同時に録音が始まります。
- CDプレーヤーの再生が終わると、カセットデッキは録音を終了し、停止します。

一時停止 : CDプレーヤーの▶/|||キーを押す
録音再開始 : CDプレーヤーの▶/|||キーを押す
停止 : CDプレーヤーの■キーを押す

- カセットデッキの停止 (■) キーを押すと、カセットデッキは止まりますが、CDプレーヤーは止まりません。

本機を"XS"、"XS8"、"**SL16**"(XS8) "マークのついているケンウッド製のアンプ、CDプレーヤーにシステムコントロールコードで接続すると、録音するディスクの最適録音レベルを自動的に設定し、録音を開始するCCRS機能を使うことができます。本機はメタルポジションテープには対応していませんので、メタルポジションテープでの録音はしないでください。

- 準備しましょう
- ① "接続のしかた"を参照して、接続を済ませる。
 - ② アンプの入力切替をCDにする。
 - ③ CDプレーヤーにディスクを入れる。(編集録音をするときは、CDプレーヤーでEDIT機能を用いて編集をすませておきます。)



■ : 使用するキー、または、つまみ等を示します。

CDのCCRS録音 (Bデッキのみ)

1 Bデッキにカセットテープを入れる

● 走行方向の設定は、"再生(録音)の準備"を参照してください。 -14

2 録音条件を決める

① 録音モードの選択

② DOLBY NRの選択

- 押すごとに表示が切り換わります。
- ① "⇐" : 両面録音のとき。
 - ② "⇨" : (この場合も、両面を録音して止まります。)
 - ③ "⇄" : 片面録音のとき。

- 押すごとに表示が切り換わります。
- ① DOLBY NR "B" : 一般的なタイプ。
 - ② DOLBY NR "C" : より高性能なタイプ。
 - ③ DOLBY NR "OFF" (消灯) . . : DOLBY NRを使わない。

● DOLBY NRは、テープの録音状態に合わせて選んでください。

3 CCRSキーを押す

- マルチディスクタイプのCDプレーヤーを使って、2枚以上のCDをプログラムしている場合は、プログラム編集録音できません。
- 複数のCDを入れたCDプレーヤーでCCRS録音をするときは、CDプレーヤーを通常再生モードにして、ディスクセクターキーでディスクを選択し、それからカセットデッキのCCRSキーを押してください。
- CCRSインジケーターが点滅し、約20~200秒後に録音が始まります。(約8秒間の無録音部分ができます。)

CCRSの解除

- 録音レベル設定中 : CDプレーヤーの停止キーまたはカセットデッキの停止キーを押します。
- CCRS録音中のとき : CDプレーヤーの停止キーを押してからCDプレーヤーの開閉キーを押します。
- CCRS録音が終了したとき : CDプレーヤーの開閉キーを押します。

- 録音が終了すると、カセットデッキとCDプレーヤーは自動的に停止します。
- CCRS録音が終了したときは、必ずCCRSを解除してください。(CCRSインジケーター消灯)



1. CDプレーヤーの再生中にCCRSキーを押すと、再生を中止し、CCRS設定に入ります。
2. テープの残量が少ないときは、CCRSが動作しなかったり、途中で解除されることがあります。
3. 一度CCRS録音レベルが設定されると、CCRS継続中に録音レベルの調節はできません。
4. CCRSはディスクのピークレベルを約20~200秒で探すため、ごくまれに最適レベルに設定しきれない場合があります。この場合は、"普通の録音"をしてください。
5. CCRSの録音レベル設定は、CDプレーヤーの開閉キーを押したとき、または電源を切ったときに解除されます。
6. EDIT機能を持つCDプレーヤーでは、指定時間内にテープのA面、B面とも最後の曲がとぎれないように、しかもテープの録音可能時間をフルに利用できます。(カセットデッキのREV.MODEキーを"⇨"の位置にします。)

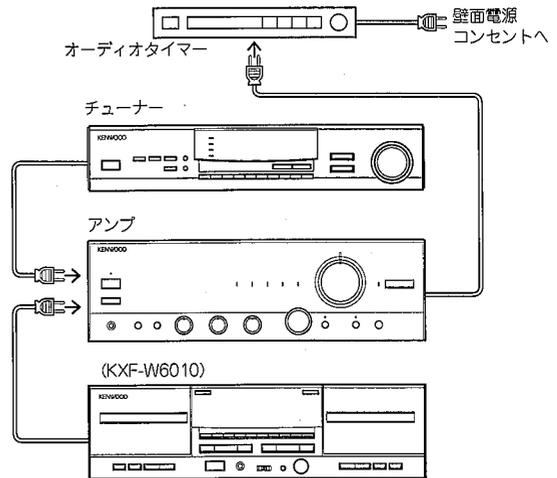
タイマーを利用して

KXF-W6010 (J)

本機にはタイマースタンバイ機能が内蔵されています。市販のオーディオタイマーと併用することによって、お好きな時刻に再生や録音を行うことができます。各機器の電源コードは、タイマーを通して電源が入るように接続します。使用するタイマーの取扱説明書をよくお読みください。

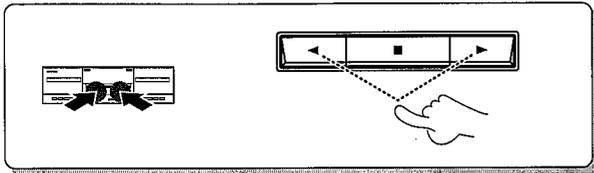
準備しましょう

- 1 各機器の電源スイッチをオンにする。
- 2 アンプの入力切換を"TAPE"にする。
- 3 "再生(録音)の準備"を参照する。 →14
(リレー再生するときには、A、B両デッキにテープを入れます。)



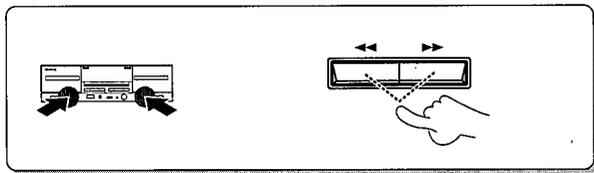
テープのタイマー再生

1 テープを再生する

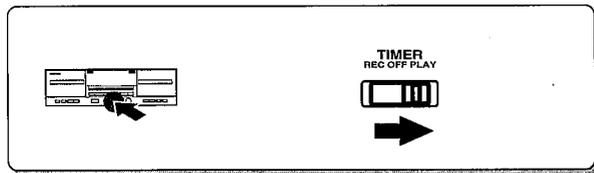


2 アンプの音量を調節する

3 テープを巻き戻す



4 TIMERスイッチをPLAYにする



5 タイマーを設定する

- 希望の時刻に再生が始まるようにタイマーを設定します。
- 設定した時刻がくると、自動的にテープの再生が始まります。
- タイマーの取扱説明書をよくお読みください。

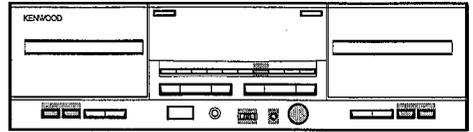


1. ケンウッドの機器(アンプ、CDプレーヤー)とシステム接続しているときは、CDプレーヤーからディスクを取り出しておいてください。
2. リレー再生をするときは、"☐" (両面再生) または "☐" (片面再生) にします。
3. Aデッキ、Bデッキ両方にテープが入っていると、タイマー再生はBデッキから始まります。
4. カセットデッキの電源はオンにしてください。(オフにするとタイマー動作はしません。)

放送をタイマーで留守録音するときに便利です。

準備しましょう

- ① 各機器の電源スイッチをオンにする。
- ② アンプの入力切換を"**TUNER**"にする。
- ③ チューナーで希望の放送局を受信する。
- ④ "再生(録音)の準備"を参照する。 → 21
(リレー録音するときは、A、B両デッキにテープを入れます。)
- ⑤ (CDプレーヤーからディスクを取り出す。)

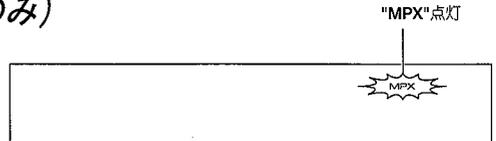


■ : 使用するキー、または、つまみ等を示します。

放送のタイマー録音

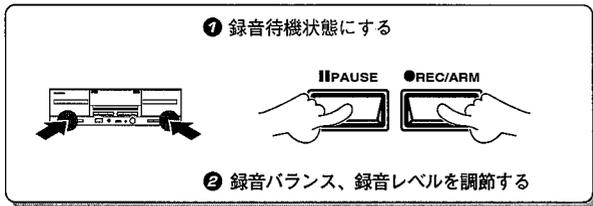
マルチプレックス フィルター

1 MPX FILTERキーを押す (FM放送録音時のみ)



- "MPX FILTERキーの使いかた"を参照してください。 → 21
- 再度、MPX FILTERキーを押すと、解除します。

2 録音レベルを合わせる

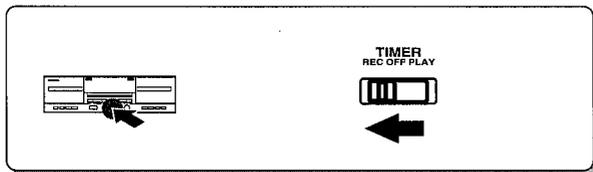


- ① 録音待機状態にする
- ② 録音バランス、録音レベルを調節する

- PAUSE(II)キーを押しながら、REC/ARM(●)キーを押します。
- "普通の録音"を参照してください。 → 20

3 アンプの音量を最小にする

4 タイマーレックTIMERスイッチをRECにする



5 タイマーを設定する

- 希望の時刻に録音が始まるようにタイマーを設定します。
- 設定した時刻になると、各機器の電源が入り録音が始まります。
- 録音する面が終わりまで来ると、録音が停止します。
- タイマーの取扱説明書をよくお読みください。

タイマーのリレー録音

- ① MPX FILTERキーをオンにする → 21
- ② "リレー録音のしかた"の手順番号①、②、③の操作をする → 23
- ③ "放送のタイマー録音"の手順番号②、④、⑤の操作をする

- リレー録音でないときは、Bデッキで録音されます。



1. 本機には、テープが終わるとメカが自動的にオフになるオートシャットオフ機構が装備されています。オートシャットオフ機構を正常に働かせるために、タイマーオフ時刻はテープの録音時間より少し長めに設定してください。
2. カセットデッキの電源はオンにしてください。(オフにするとタイマー動作はしません。)

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に症状に合わせて一度チェックしてみてください。

マイコンをリセットするには

電源がオンのときの接続コードの抜き差しや、あるいは外部からの要因により、マイコンが誤動作（操作できない、ディスプレイの誤表示など）することがあります。この場合、次の方法をお試しください。

マイコンがリセットされ、通常の状態に戻ります。

Bデッキの停止(■)キーを押しながら、POWERスイッチをオフ/オンし直します。

●リセットにより、各種の記憶内容は消滅し、工場出荷時の状態となります。ご了承ください。

症 状	原 因	処 置
再生キーを押しても音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ●コードの接続が間違っている。 ●ヘッドが汚れている。 ●巻き取りムラがありテープが重くなっている。 ●未録音テープを再生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●"接続のしかた"に従い正しく接続する。→10 ●"ヘッドのお手入れ"をみて、ヘッドを清掃する。→8 ●テープを交換してみる。 ●録音済みテープを使う。
操作キーを押しても作動しない。	<ul style="list-style-type: none"> ●カセットホルダーが完全に閉まっていない。 ●カセットホルダーを閉めて、すぐ操作キーを押している。 ●電源を入れてから、3秒以内に操作キーを押している。 ●テープが入っていない。 ●巻き取りムラがありテープが重くなっている。 ●テープがどちらかに巻き取られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ホルダーを完全に閉める。 ●ホルダーを閉めてから何秒か待って操作キーを押す。 ●3秒以上たってから操作キーを押す。 ●テープを入れる。 ●テープを交換してみる。 ●デッキの走行方向をかえる、またはテープを裏返す。
DPSSが誤動作する。	<ul style="list-style-type: none"> ●曲と曲の間が短いなどDPSSに不適当なテープを使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●"便利な選曲のしかた (DPSS)"をお読みください。→16
CCRSが作動しない。	<ul style="list-style-type: none"> ●Bデッキに録音できるテープが入っていない。 ●CDプレーヤーにディスクが入っていない。 ●ディスクが汚れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●Bデッキに録音できるテープを入れ、操作をやり直す。 ●CDプレーヤーにディスクを入れ、操作をやり直す。 ●ディスクを清掃したあと、CDプレーヤーに入れ、操作をやり直す。
AデッキとBデッキで、ダビングの終わる時間が違う。	<ul style="list-style-type: none"> ●テープの長さやカセットデッキのメカニズムの特性によるもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ●多少の時間差は故障ではありません。
イジェクト(▲)キーを押しても、ホルダーが開かない。	<ul style="list-style-type: none"> ●録音中、または再生中に押している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●停止状態で押す。
音がかすれたり高音が出なくなる。	<ul style="list-style-type: none"> ●ヘッドが汚れている。 ●テープがのびたり、ワカメ状になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●"ヘッドのお手入れ"をみて、ヘッドを清掃する。→8 ●テープを交換する。
音がひずむ。	<ul style="list-style-type: none"> ●録音するとき、録音レベルを上げすぎている。 ●ひずんだ音で録音されたテープを再生している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●"普通の録音"をみて録音レベルを調節する。→20 ●テープを交換する。

症 状	原 因	処 置
録音キーを押しても録音できない。	<ul style="list-style-type: none"> ●カセットテープのツメが折れている。 ●カセットホルダーが完全に閉まっていない。 ●録音レベルが最小になっている。 ●アンプの入力切換が、^{テープ}TAPEになっている。 ●テープがどちらかに巻き取られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ツメの折れていないテープを使う、または穴をふさぐ。 ●ホルダーを完全に閉める。 ●"普通の録音"をみて、録音レベルを調節する。 → [20] ●アンプの入力切換を録音したいソースにする。 ●デッキの走行方向をかえる、またはテープを裏返す。
雑音大きい。	<ul style="list-style-type: none"> ●ヘッドが磁気を帯びている。 ●外部の雑音を誘導している。 ●システムの組み合わせ位置が違う。 ●録音レベルが低い。 ●ドルビーNRを^{オン}ONで録音したテープを^{オフ}OFFで再生している。 ●キャプスタン、ピンチローラーが汚れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●"ヘッドのお手入れ"をみて、消磁する。→ [8] ●電気器具、テレビなどから離す。 ●組み合わせ機器の置き方および位置を変える。 ●"普通の録音"をみて、録音レベルを調節する。 → [20] ●^{ドルビー}DOLBY NRキーでBかCにする。 ●"ヘッドのお手入れ"をみて、ヘッドを清掃する。 → [8]
音がふるえる。	<ul style="list-style-type: none"> ●テープに巻き取りムラがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●テープの端から端まで通して、"早送り"、"巻き戻し"、または再生をして巻き直す。
電源を入れると再生または録音が始まる。	<ul style="list-style-type: none"> ●^{タイマー}TIMERスイッチが、"^{プレイ}PLAY"または"^{レック}REC"になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●タイマー再生または録音をするとき以外は^{タイマー}TIMERスイッチをOFFにしておく。



テープの種類によっては、自動的にテープが止まったときに"キュー"という音がすることがあります。これはテープ保護機構が働くため、故障ではありません。

トラック方式	4トラック2チャンネルステレオ
録音方式	交流バイアス (周波数: 105kHz)
ヘッド	
Aデッキ用 録音/再生用	1
消去用	1
Bデッキ用 録音/再生用	1
消去用	1
モーター	
Aデッキ用 DCモーター	1
Bデッキ用 DCモーター	1
ワウ・フラッター	0.1% (W.R.M.S)
早巻き時間	約110秒 (C-60)
周波数特性 (EIAJ)	
TYPE I テープ	30Hz~18,000Hz, ±3dB
TYPE II テープ	30Hz~19,000Hz, ±3dB
TYPE IV テープ	30Hz~19,000Hz, ±3dB
総合SN比	
DOLBY NR OFF	56dB
(250nWb/m, TYPE I テープ)	
DOLBY NR OFF	59dB
DOLBY B NR ON	68dB
DOLBY C NR ON	75dB
(3次高調波ひずみ率3%, TYPE II テープ)	
ひずみ率 (315Hz, 3rd H.D., 250nWb/m, TYPE II テープ)	
(EIAJ)	1.2%
入力端子 (感度/インピーダンス)	
ライン	122.8mV/47kΩ
出力端子 (レベル/インピーダンス)	
ライン	775mV/1.0kΩ
ヘッドホン	0.5mW/32Ω

[電源部・その他]

電源電圧・電源周波数	AC100V 50Hz/60Hz
定格消費電力 (電気用品取締法に基づく表示)	18W
最大外形寸法	
幅	440mm
高さ	134mm
奥行	369mm
重量 (正味)	4.6kg



これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。

●極端に寒い(水が凍るような)場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

保証について

保証書

製品には保証書が別途添付されています。所定事項（お買い上げ日、販売店名など）が記載されていること、ならびに記載の内容を必ずご確認のうえ、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間内の場合は...

保証書の記載内容に従い、お買い上げの販売店、またはケンウッドのサービスステーション、営業所が無料修理いたします。修理の際は保証書をご提示ください。

- 電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

修理をご依頼になるときは

「故障かな?と思ったら」を参照してお調べいただき、なお異常があるときは、製品の電源をオフにし、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスステーション、営業所にご連絡ください。

(別紙“全国サービス網”をご参照ください。)

持込修理と出張修理

「持込修理」、「出張修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。

- 修理のために、セットを販売店やケンウッドのサービスステーション、営業所までお持ちになるときは、お買い上げのセット全部をお持ちください。(スピーカーは除きます)
- セットを修理に持ち込まれる際は、輸送中にキズが付くのを防ぐため、必ず包装してください。(お買い上げ時の梱包材の再使用が理想的です。)

保証期間が過ぎている場合は...

お買い上げの販売店、またはケンウッドのサービスステーション、営業所にご相談ください。修理すれば使用できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理します。

- ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後、8年間です。
- この期間は、通商産業省の指導によるものです。
- 性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理料金のしくみ(有料修理の場合、これらの費用が必要です。)

- 技術料:故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。
- 部品代:修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料:製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

出張修理を依頼されるときは、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号(SERIAL No.)
- お買い上げ年月日
- お買い上げの販売店名
- 故障の症状(できるだけ具体的に)
- お客様の連絡先(お名前、住所、電話番号)

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒150-8501 東京都渋谷区道玄坂 1-14-6

- 商品、商品の取り扱いに関するお問い合わせは、お客様相談室をご利用ください。
お客様相談室(東京) 電話(03)3477-5335 〒153-0042 東京都目黒区青葉台 3-17-9(ケンウッド青葉台ビル)
(大阪) 電話(06)357-5335 〒534-0024 大阪府都島区東野田町 1-20-5(大阪京橋第一生命ビル)
- アフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または、別紙“ケンウッド全国サービス網”をご参照のうえ、最寄りのサービスステーション、各営業所にご相談ください。